

2020 年度第 12 回価格審査会の開催について

2020 年度第 12 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2021 年 3 月 15 日(月) ~17 日 (水)
場 所	新型コロナウイルスへの感染防止策が引き続き必要とされていることから、上記期間中のメール会議とした
委 員	田中 弘 日本工営株式会社 技術本部 専門顧問 技師長 江川 浩 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長 鈴木 孝之 東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 工事予算計画室 室長 辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 柳 泰彦 株式会社日本設計 コスト設計部長
当 会	共通資材調査部 部長：大谷 忠広、次長：康広 誠己 建築調査部 部長：足利 全教、次長：渡辺 弘一 監査審査室 室長：後藤 裕 調査統括部(事務局) 部長：神田 尚昭、課長：菊池 信博

2020 年度第 11 回価格審査会議事録(案) 確認

2020 年度第 12 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明	
1. 「建設物価」4月号、「Web 建設物価」4月号、 「土木コスト情報」春号、「建築コスト情報」春号の価格動向 ・ 価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 月積み契約分鉄鋼販売価格 形鋼、鋼板（全国）、異形棒鋼及びねじ節鉄筋(関東、東北、北陸の各都市)、H形鋼（北海道、中部を除く各都市）、鋼板（全都市）、市中切板（全都市）、コラム(札幌、仙台、東京、新潟)、線材製品(北海道、関東、北陸、中部地区)、レディーミクストコンクリート（北見、水戸、日立、鹿嶋、銚田、宇都宮、鹿沼、真岡、東京都17区、八王子、立川、武蔵野、府中、調布、町田、相模原A、相模原B、平塚、藤沢、厚木、長野A、羽咋、浜松、袋井、豊橋、宇陀、御杖、天川、十津川、川上、倉吉、三朝、琴浦、白杵）、コンクリート用骨材(札幌、北見、網走、久慈、宇都宮、鹿沼、千葉、市川、船橋、館山、茂原、東金、出雲、広島、安芸太田、須崎、四万十)、一般建築用木材(関東の各都市)、コンクリート型枠用合板(中国、四国を除く全都市)、トンネル支保工(全地区)、IV電線(全地区)、燃料油(全都市)、鉄スクラップ(全都市)、銅スクラップ(全都市)など	

【土木コスト情報】

市場単価：法面工（岩手、宮城、福島、熊本を除く全国）、鉄筋挿入工（岩手、宮城、福島を除く東北、関東、北陸、熊本を除く九州、沖縄）など
 標準単価：区画線工、橋梁塗装工、構造物とこわし工、コンクリートブロック積工、表面含侵工、剥落防止工、防草シート設置工（全国）など

【建築コスト情報】

市場単価：コンクリート工事（高松）

標準施単：土工事（全都市）、構内舗装（インタロ）工事（全都市）など

- ・価格が下落した資材（工事費）

【Web 建設物価】

再生碎石（福岡）など

【土木コスト情報】

市場単価：鉄筋工（広島）

標準単価：バキュームブラスト工の一部（全国）

【建築コスト情報】

市場単価：鉄筋工事（広島）

標準施単：鉄筋工事（広島）

2. 比較資料

- ・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明。

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	鉄スクラップ価格の影響を受けて上伸している電炉メーカー製品以外にも、平鋼などの高炉メーカー製品も上伸している。原料（鉄鉱石）価格の動向、また、一部の高炉メーカー施設の運転停止状況等を含めて、高炉メーカー製品が上伸する理由・背景を知りたい。	今月上伸した鋼材の店売り価格は、品種により差はあるものの高炉品、電炉品が混在して流通している。高炉メーカーは、新型コロナの影響による需要減を受け、昨年春頃から一部炉休していたが、現在は概ね通常通り稼働している。電炉メーカーが鉄スクラップ価格の上昇から値上げを進めるなか、高炉メーカーも鉄鉱石価格の高止まりを背景に値上げを進めている。
質問 2	コンクリート型枠用合板は、輸入量減少による需給のタイト感の強まりで、全国的に上伸傾向にある中、中部地区だけに無変動なのはなぜか。中部地区としてくくれる地方特性に因る理由があるのか。	中部地区においても入荷量減少により需給はタイトとなっており、2月号で価格は上伸した。それ以降、需要が伸び悩むなか、今月は横ばい推移となった。

質問 3	「鉄スクラップ価格の下落は、一時的との見方が大勢で・・・」とあるが、鉄スクラップの海外市況軟化の理由・背景は何か。	新型コロナの影響で世界的に鉄スクラップ発生量が減るなか、アジアでは鋼材生産量が比較的堅調に推移し、昨年未頃までは、鉄スクラップは需給ひっ迫から市況上昇傾向にあった。しかし、今月は、中国が春節を迎えたことなどで、アジアの鋼材生産量が一時的に減少し、海外の鉄スクラップ市況が軟化に転じた。
質問 4	鉄スクラップの過去の推移をみると、東京地区の方が大阪地区より、1～5千円程度高い状況が続いている。東京地区は下落幅が大きく 23,000 円になったことから、一時的に下落幅の小さい大阪地区 24,000 円の方が高く逆転現象となった。この理由は何か。	東京地区では、電炉メーカーが電力会社の節電要請などを受け減産を実施したことで需給が急速に緩和し、大幅に下落した。
質問 5	道路用砕石(大津)は、新名神工事向け需要が堅調に推移する中、ダンプ(車両)不足による輸送コスト上昇となっているが、人手不足は問題ないか。	ダンプ不足の背景には、運転手の不足もある。需要が堅調に推移するなか、慢性的な人手不足に働き方改革なども加わり、運転手の不足感はより高まっている。
質問 6	セメントで、大阪地区のみ 9,500→9,900 円と 400 円上昇しているが、値上げの理由は何か。	大阪地区では、ここ数年で生コン市況が大幅に上伸している。この生コン市況の上伸を背景に、主な需要家である生コンメーカーの購入姿勢が軟化し、メーカー各社が過去に打ち出した値上げ積み残し分が浸透した。
質問 7	自動車生産の急回復に伴い、特に薄板が異例の高騰となっている。半導体の供給不足は短期的と言えるかもしれないが、自動車の減産による鋼材系への影響は限定的なのか。	昨年 12 月頃からの自動車生産の回復などにより、高炉メーカーの製造業向け鋼板販売量も、新型コロナ前の水準近くまで回復している。製造業向け需要が好調ななか、高炉メーカーが鉄鉱石価格の高止まりを背景に値上げを進め、上伸した。

質問 8	新潟地区において、植栽関係の価格が変動、かつ、増・減が混在する理由は何か。生産者の値上げ又は値下げが浸透したというコメントがあるが、新潟市のみにおいてこのような動向がみられる特有の理由があるのか。	<p>全国的に新型コロナの影響などで樹木の需要が低迷するなか、販売側は運転手不足に伴う輸送コスト高を抱えている。こうしたなかで、新潟地区では、主に遠方（県外）から樹木を調達しており、販売価格に占める輸送費の割合が比較的高い傾向にある。このため、運転手不足を背景とする輸送費上昇の影響を他地区より強く受けており、今月の価格上伸に繋がった。</p> <p>一方、価格が下落した樹種については、特に需要の少ない樹種について生産者が値下げしたことに加え、在庫を抱える新潟地区の流通業者が売り上げ確保を優先し追従したことによる。</p>
質問 9	鉄スクラップの下落要因は、「需給バランスが急速に緩和するなか、電炉メーカーが購入価格を大幅に引き下げたため」とあるが、先月は海外需要のひっ迫により大幅に上伸し、さらに中国で輸入が再開されるなど需給ひっ迫に拍車がかかるとの見通しであった。海外需要が見通しに反して軟化した理由は何か。	中国の春節などによるアジアの鉄鋼生産量の一時的な減少や、新型コロナの影響による欧米での需給緩和で、海外市況が軟化した。輸出向けの引き合いが弱まるなか、電力会社の節電要請などを受けた電炉メーカーが減産し、東京地区の需給バランスは急速に緩和した。
質問 10	レディーミクストコンクリートで、「最大変動率 100%は、甲府地区の小型車割増が 1,000 円→2,000 円に上伸したことによる」とあるが、12,400 円（2 月号）→14,000 円（3 月号）なので、最大変動率 100%という表記は妥当なのか。	最大変動率は、変動した全規格の変動率で最大の値を表記している。甲府地区のベース規格である 18-18-20 は、12,400 円→14,000 円と変動額 1,600 円で、変動率は 12.9%である。
質問 11	レディーミクストコンクリートで、最小変動率▲0.5%、最大変動率▲2.5%はどの地区か。協組の価格体系変更とあるが、値下げの理由は何か。	最小変動率▲0.5%は御坊地区の水セメント比指定規格品で、最大変動率▲2.5%は有田地区の 40 強度規格品である。協組が、販売エリア広域化に伴い各地区の価格体系を統一したため、一部地区の一部規格で価格が下落した。
審議結果	「建設物価」4月号、「Web 建設物価」4月号、「土木コスト情報」春号、「建築コスト情報」春号の価格動向に問題はなかった。	

以上